

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がある」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



アーティストサポートの詳細はこちらをご覧ください。

## 2024年度ご支援いただいた皆様

### <2024年度 年間サポート>

朝妻幸雄 F.A. 井上豊 岩村和央 上原啓子 上村憲裕 M.U. K.O. S.O. 小田島容子 片山由美子  
H.K. K.K. 栗田美知子 新貝康司 M.S. M.T. R.T. A.D. 田中治郎 F.T. ツルラーブ真智子  
ツルラーブ真凜 K.N. E.N. 兒子弥生 S.N. 長谷川智子 T.H. 樋口美枝子 M.H. 平山美由紀  
藤野盾臣 松尾芳樹 真野美千代 三木谷晴子 J.M. M.M.  
株式会社青林堂 株式会社セキド 三井住友カード株式会社  
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション  
ライブプラン株式会社 Heart of the Earth株式会社 きづきアセット株式会社  
(匿名希望 27名)

### <2024年度 福間洸太郎に「花を贈ろう!」>

あかほりみお 厚見有紀 F.A. J.A. 池田惇子 石黒裕康 石崎典子 井住智子 R.I. A.I. 岩塚究 K.U.  
M.E. 猿渡かおり M.E. 大畑篤子 大原志津子 大原みずほ 小山田美代子 カッキー 柿信子 柏香織  
T.K. 川島理絵 駒場雅世 A.K. 桜猫 桜井桂子 佐々木珠乃 佐野孝枝 A.S. N.S. 塩崎勢子 W.S.  
A.S. 新里真美子 進導幸太郎 鈴木志保里 N.S. 早田利江 高島秀子 鷹巣綾子 高田恵子 N.T.  
武田眞子 武田佳美 辻田奈津 土屋麻起 長江雅子 中嶋妙子 Y.N. 中島葉子 S.N. 中村祥子 A.N.  
K.N. 野口由美 H.N. 林順子 平井聖香 平山美由紀 深堀悦代 S.F. 伏見由加 A.H. R.M. K.M.  
三浦祐子 三浦洋子 村田恵美 村山幸恵 山口恵美 依田晴美  
(匿名希望 24名)

### <2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

井口和美 K.K. Rimiko M.H. M.M. 真野美千代 水足久美子 水足秀一郎 ロロコミ・リロコミ  
(匿名希望 12名)

### <2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

井口和美 T.O. K.K. Rimiko M.T. 平山美由紀 細沼康子 M.M. 真野美千代 村瀬治男 ロロコミ・リロコミ  
(匿名希望 11名)

2025年1月13日現在 敬称略



ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)

# Beethoven

The Complete Piano Concertos

## ベートーヴェン

### ピアノ協奏曲全曲演奏会

2025年1月25日(土) 17:30開演

サントリーホール

5:30p.m., Saturday, January 25, 2025 at Suntory Hall

主催：ジャパン・アーツ



文化庁 劇場・音楽堂等における  
子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

## ベートーヴェン:

L. v. Beethoven:

## 第1部

## ピアノ協奏曲第1番 ハ長調 Op.15 [ピアノ:上原彩子]

Piano Concerto No.1 in C major, Op.15 [Piano: Ayako Uehara]

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 第1楽章: アレグロ・コン・ブリオ | 1st Mov.: Allegro con brio |
| 第2楽章: ラルゴ         | 2nd Mov.: Largo            |
| 第3楽章: ロンド、アレグロ    | 3rd Mov.: Rondo. Allegro   |

## ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 Op.19 [ピアノ:三浦謙司]

Piano Concerto No. 2 in B-flat major, Op.19 [Piano: Kenji Miura]

- |                    |                                |
|--------------------|--------------------------------|
| 第1楽章: アレグロ・コン・ブリオ  | 1st Mov.: Allegro con brio     |
| 第2楽章: アダージョ        | 2nd Mov.: Adagio               |
| 第3楽章: ロンド、モルト・アレグロ | 3rd Mov.: Rondo. Molto allegro |

\* \* \* \* \*

## 第2部

## ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 Op.37 [ピアノ:吉見友貴]

Piano Concerto No. 3 in C minor, Op.37 [Piano: Yuki Yoshimi]

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 第1楽章: アレグロ・コン・ブリオ | 1st Mov.: Allegro con brio |
| 第2楽章: ラルゴ         | 2nd Mov.: Largo            |
| 第3楽章: ロンド、アレグロ    | 3rd Mov.: Rondo. Allegro   |

## ピアノ協奏曲第4番 ト長調 Op.58 [ピアノ:ソン・ミンス]

Piano Concerto No. 4 in G major, Op.58 [Piano: Minsoo Sohn]

- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 第1楽章: アレグロ・モデラート   | 1st Mov.: Allegro moderato |
| 第2楽章: アンダンテ・コン・モート | 2nd Mov.: Andante con moto |
| 第3楽章: ロンド、ヴィヴァーチェ  | 3rd Mov.: Rondo. Vivace    |

\* \* \* \* \*

## 第3部

## ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op.73「皇帝」 [ピアノ:横山幸雄]

Piano Concerto No. 5 in E-flat major, Op.73 [Piano: Yukio Yokoyama]

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 第1楽章: アレグロ               | 1st Mov.: Allegro                      |
| 第2楽章: アダージョ・ウン・ポコ・モッソ    | 2nd Mov.: Adagio un poco mosso         |
| 第3楽章: ロンド、アレグロ・マ・ノン・トロッポ | 3rd Mov.: Rondo. Allegro ma non troppo |

指揮: 現田茂夫 Shigeo Genda, Conductor

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra



©武藤章

## 上原 彩子 Ayako Uehara (ピアノ, Piano)

第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた日本人として史上初の第一位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。ヤノフスキ、ルイージ、ペトレンコ、小澤征爾、小林研一郎、尾高忠明各氏等の指揮のもと、国内外のオーケストラとの共演も多く、2017年にはベルリン及び日本国内において、インバル指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。2024年からベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲シリーズに取り組んでいる。東京藝術大学音楽学部早期教育リサーチセンター准教授。令和4年度文化庁長官表彰受賞。



©Harald Hoffmann

## 三浦 謙司 Kenji Miura (ピアノ, Piano)

1993年神戸生まれ。4歳からピアノを始め、ロンドン・パーセル・スクール、ベルリン ハンス・アイスラー音楽大学で研鑽を積む。一度音楽の世界から離れ日本で様々な仕事をしながらボランティア活動にも参加、再び音楽の道に戻った異色の経歴の持ち主。2019年、アルゲリッチが審査員長を務めたロン・ティボー国際コンクールで優勝及び3つの特別賞を獲得、世界的な注目を集める。ウィグモアホールなど世界の一流の舞台で演奏、フランス国立管弦楽団など著名なオーケストラとも共演。ルール・ピアノ・フェスティバル、リヨン・ショパン・フェスティバルなど世界各地のフェスティバルにも招かれる。2022年11月にアルバム『アイデンティティ』をリリース。



©Nippon Columbia

## 吉見 友貴 Yuki Yoshimi (ピアノ, Piano)

第86回日本音楽コンクールで最年少優勝を果たす。2021年エリザベート王妃国際音楽コンクールセミファイナリスト。2022年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールクォーターファイナリスト。2020年、日本フィル定期演奏会にてM.ダルベルト氏の代役を務め、好評を博した。現在、ニューイングランド音楽院に奨学生として在学中。ダン・タイソン、アレクサンダー・コルサンティア、上野久子、伊藤恵の各氏に師事。2019、20年度ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。2020年度江崎スカラシップ奨学生。第51回江副記念リクルート財団奨学生。



©Shin-joong Kim+MOC

## ソン・ミンス Minsoo Sohn (ピアノ, Piano)

音楽的知性と鮮やかな技巧で知られる韓国系アメリカ人ピアニストであり、その才能は米国、カナダ、韓国で絶賛されている。特にバッハとベートーヴェン作品の解釈によって、このレパートリーにおける第一人者とされており、多数の賞を受賞している。2020年にはベートーヴェンの生誕250周年に合わせた一連のコンサート、レコーディングなど、ベートーヴェンの作品に没頭した活動を行い、秋にはソニークラシカルより9枚組の「ベートーヴェンピアノ・ソナタ全曲」をリリースした。ソンは教育者、演奏家、音楽思想家としてその名声を拡大し続けている。2023年秋、ニューイングランド音楽院ピアノ教授陣に加わった。



©ZIGEN

## 横山 幸雄 Yukio Yokoyama (ピアノ, Piano)

ショパン国際ピアノコンクールにて歴代の日本人として最年少入賞以来、数々の賞を受賞。自ら企画する意欲的なプロジェクトは常に注目をあびる。ゴールデンウィークの恒例「入魂のショパン」はギネス世界記録に認定。2020年の「ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全32曲連続演奏会」は大きな反響をよんだ。ベートーヴェン生誕250年に向けて取り組む「ベートーヴェン・プラス」は毎年高い評価を得る。近年は自身の作曲作品の出版や指揮者としても成功をおさめるなど、活動は多岐にわたる。日本パデレフスキ協会会長。オフィシャルサイト <https://yokoyamayukio-official.bitfan.id/>



©K.Miura

## 現田 茂夫 Shigeo Genda (指揮, Conductor)

1979年東京音楽大学指揮専攻に入学。汐澤安彦、三石精一両氏に師事。1982年東京藝術大学指揮専攻に入学。佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。ドレスデンフィル、スロヴァキアフィル、プラハ交響楽団、サンレモ交響楽団等に客演し、コンサート、オペラ両面で活動を続ける。1994年のプラハの春での佐藤しのぶコンサートは全ヨーロッパで放映された。神奈川フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。他、国内外の主要オーケストラも指揮し好評を得ている。2023年からは東京藝術大学指揮科客員教授として後進の指導にもあたっている。



©上野隆文

## 東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

1911年創立。日本のオーケストラとして最古の歴史をもち、メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主公演の他、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏で高水準の演奏活動を展開。また、海外公演も積極的に行い、国内外から高い注目を集めている。1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。



道下 京子 (音楽評論)

Kyoko Michishita

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)は、番号のついた5曲のピアノ協奏曲のほかに、自作の《ヴァイオリン協奏曲》をピアノ協奏曲へ編み直した作品も手掛けている。彼は、生まれ故郷であるドイツのボンを1792年に離れ、楽都ウィーンへ移り住む。

ベートーヴェンのピアノ協奏曲の出発点は、モーツァルトであった。1784年に作曲された変ホ長調のピアノ協奏曲(WoO4)は、ピアノ独奏のパートしか残っていないものの、若きベートーヴェンの理想をよく示している。第3番以降のピアノ協奏曲は、交響曲の作曲の経験を踏まえ、のちのヴィルトゥオーソ協奏曲を先取りする表現を確立するとともに、伝統的な長いオーケストラの前奏を割愛するなど、協奏曲の刷新を実現していった。

### ピアノ協奏曲第1番 ハ長調 Op.15

ベートーヴェンはウィーンに移住後、ハイドンやアルブレヒツベルガー、サリエリらに師事して作曲の基礎を学ぶ。第1番のピアノ協奏曲は、こうした背景をもとに伝統的なソナタ形式を礎として、彼独自の創意が存分に発揮された作品。創作は1793年に着手され、1795年3月に初稿が完成。同月29日の初演では、ベートーヴェン自身がピアノを弾いた。最終稿の完成は、1800年4月以降である。

この協奏曲の堂々とした開始は、それまでのピアノ協奏曲とは異なり、交響曲の要素を取り入れ、さらに大胆な和声や転調を用いて斬新な表現を試みた。1804年の「音楽総合新聞」は、「奇怪なまでに半音階的な進行と異名同音転換で飾り立てたベートーヴェンの新しい協奏曲」とこの作品を批評している。

第1楽章:アレグロ・コン・プリオ ハ長調

第2楽章:ラルゴ 変イ長調

第3楽章:ロンド、アレグロ ハ長調

### ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 Op.19

番号こそ第2番であるが、それは出版の順序が第1番のあとになったためである。ベートーヴェンが最初に作曲したピアノ協奏曲は、この作品である。第2番は、ボン時代にすでに作曲が行なわれ、ウィーンで完成をみるまでに、何度も改訂が施された。彼はこの作品以前にも、ピアノ協奏曲の創作を試みている。ボンで手掛けられた第2番の正確な初演年ははっきりとしないが、ウィーンへ移住する前に演奏されていたとみられている。初版の刊行は1801年。

モーツァルトを一つの典拠としており、それはこの作品の書法に示されている。なお、もともと《ロンド》変ロ長調WoO6が、この協奏曲の第3楽章として書かれたが、のちに今日の第3楽章に入れ替えられた。

第1楽章:アレグロ・コン・プリオ 変ロ長調

第2楽章:アダージョ 変ホ長調

第3楽章:ロンド、モルト・アレグロ 変ロ長調

### ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 Op.37

モーツァルトの影響をとどめる第1番と第2番のピアノ協奏曲に続いて書き上げられた第3番は、ベートーヴェンの創作の転換期の作品である。最初の構想を得たのは1796年で、推敲を経て1803年に最終的な完成をみた。4月5日に行なわれた初演では、ベートーヴェンがピアノ独奏を務めている。

このピアノ協奏曲はハ短調で書かれている。この調性は、ロマン派の作家でベートーヴェンの批評家のひとりであるホフマンによると、ディモーニッシュな調とされた。またベートーヴェンは1803年からエラール社の、5オクターヴ半の音域をもつピアノを使っているが、出版に際してもこの音域を用いるように改訂を行なっている。そして、《交響曲第1番》の創作の経験を踏まえ、管楽器の扱いがより巧みになり、交響曲的な表現とヴィルトゥオージティを融合した傑作と言える。

第1楽章:アレグロ・コン・プリオ ハ短調

第2楽章:ラルゴ ホ長調

第3楽章:ロンド、アレグロ ハ短調

### ピアノ協奏曲第4番 ト長調 Op.58

第4番は、ピアノ独奏とオーケストラが一体化した新しい表現を用い、歌うような抒情性と自然の音楽の流れに満ちている。1805年から翌年にかけて作曲されたこの作品は、いわゆる「ハイリゲンシュタットの遺書」を乗り越えた時期の創作である。公の初演は1808年12月22日に行なわれた。この日の演奏会は、この作品の公開初演のほかに、《交響曲》第5番&第6番や《合唱幻想曲》も初演され、音楽の歴史において画期的な意味をもつ演奏会であった。

このピアノ協奏曲は、第5番とともにピアノ独奏で開始する点で斬新であり、同時にピアノ独奏とオーケストラを総合した表現は、ピアノ協奏曲の新しいあり方を示している。また、この協奏曲で注目されるのは第2楽章である。ユニゾンで奏されるオーケストラとピアノ独奏は、あたかもオペラの対話の場面を連想させ、続くピアノ独奏はまさにアリアである。声楽的な表現と協奏曲との融合という意味でも、この作品は新たな世界を開拓した。

第1楽章:アレグロ・モデラート ト長調

第2楽章:アンダンテ・コン・モート ホ短調

第3楽章:ロンド、ヴィヴァーチェ ト長調

### ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op.73 「皇帝」

ベートーヴェンは、1809年に第5番のピアノ協奏曲の創作を始めた。この作品に取り組んでいた4月、ナポレオン軍はウィーンへ侵攻し、貴族の多くはウィーンを離れた。経済的にも厳しい状況にあったベートーヴェンは、翌年にこの曲を完成させた。初演は1811年にライブツィヒで行なわれ、ウィーン初演の際には、彼の弟子カール・ツェルニーがピアノ独奏を担っている。

華やかで堂々とした風格にちなみ、出版者のクラマーはこの協奏曲を「皇帝」と名づけた。《交響曲第5番「運命」》や《交響曲第6番「田園」》の創作を経て手掛けられたこの作品は、雄大な楽想のモニュメンタルな様式を特徴とする。第4番と同じく、オーケストラ前奏を置かずピアノ独奏が曲の始まりを告げる。第2楽章と第3楽章をアツカで接続し、楽章間の融合を図った点も大きな特徴である。

第1楽章:アレグロ 変ホ長調

第2楽章:アダージョ・ウン・ポコ・モツォ ロ長調

第3楽章:ロンド、アレグロ・マ・ノン・トロppo 変ホ長調